

### 第3 問題作成部会の見解

#### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高等学校学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
- 「リーディング」「リスニング」とともに、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、各CEFRレベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1からB1レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 「リーディング」については、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。
- 「リスニング」については、生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について、概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。

読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、1回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及するなど、自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を1回読みにする可能性についても今後検証しつつ、当面は1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。
- グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし、各大学の入学者選抜において、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、4技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」（平成29年7月）を踏まえた各大学の判断となる。

#### 大学入学共通テスト英語におけるイギリス英語の使用について（令和元年8月23日）

現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。

#### 2 各問題の出題意図と解答結果

本部会では上記の方針を踏まえ、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正かつ正確に測定する問題作成に向けての検討を継続的に行ってきた。令和4年度共通テストについては、平成29年度試行調査（プレテスト）及び平成30年度試行調査（プレテスト）、また令和3年度共通テストの結果も踏まえ、問題形式や内容を分析し、各大問で測るべき言語能力を検証した上で、各大問で測るべき能力を様々な方法で問うことができるよう配慮した。また、実際のコミュニケーションを重視するという観点から、問題の指示文等も英語とした。

第2問のような概要や要点を把握することに加えて、推測したり、事実と意見を整理したりしな

がら読む問題、第3問のようなイラストや写真などの視覚情報を参考にして、概要・展開を把握する問題、第4問のような複数の情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を把握する問題など、思考力・判断力・表現力等を測れるような問題作成を工夫した。また、試験全体を第1問～第6問の六つの大問で構成することを継承し、セクション数（中間）は10、総設問数48、配点2～3点という構成内容で出題した。

第1問 Aは、日常生活の中で用いられることが多い、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）での双方型の英文から、必要とする情報を読み取る問題である。問1では、クラスメートが計画していることが何かを読み取り、問2では、どのような返信をするか、場面や状況を理解し、推測して判断させている。Bは、海外留学や就職に関するオンラインイベントに関するウェブサイト上の平易な英文から、必要とする情報を読み取る問題である。いずれの問いにおいても、選択肢が英文中の語から言い換えられており、単に選択肢の英語を英文の中から探すような読みでは正解にたどり着けない問題である。

第2問 Aは、滞在を予定しているホテルのウェブサイトを読み、概要や要点を捉えたり、推測したり、事実や意見を整理したりする問題である。問1～問3は、このホテルに実際自分が滞在する際にできることを、ウェブサイトの記述内容から考えさせる問題である。また、問4と問5は、このサイトに掲載されている過去のホテル利用者によるレビュー内容の理解を問うもので、特に問5では各レビュアーの意見をていねいに読むことが求められる。Bではディベートの準備として米国の小学校での昼休み時間変更に関する記事を読む状況設定である。問1はこのディベートのテーマを特定するもので、本文全体の概要把握を必要とする。また、問2と問3では、昼休みを昼食前に移動することのメリットとデメリットの両方をバランス良く捉えることが求められる。また問4と問5は筆者の意見を正確に読み取り、それが何を示唆するか考えさせるなど、思考を要する内容であった。Aではイギリス英語を用いたが、違和感なく読めたものと思われる。

第3問 Aは、ブログの平易な英語を読み、その概要を把握する問題である。このブログで紹介されているワークショップの目的や、書き手の勧めに従った場合、このワークショップに参加するのに最適な日を選ばせるなど、本文内容とカレンダーの情報を組み合わせながらていねいに情報を整理する必要がある。Bは、英国のドッグシェルターに関する平易な英文の記事を読み、概要や要点を捉える問題である。問1と問2では、出来事が起きた順番やこのドッグシェルターができた理由などの本文の要点や話の展開の理解を、また問3では、この記事から読み取れることを考えさせるものである。A、B共にイギリス英語を用いている。

第4問 近く海外からのゲストを迎え入れる予定の家族と、ゲストのTomとの間での平易なメールのやりとりを読み、Tomの滞在期間のスケジュールをメモにまとめている状況設定で、提示された表も参考にしながら必要とする情報を読み取らせる問題である。問1～問5のいずれも両方のメールにわたってやり取りがされている内容で、両者の関係性を把握し、整理しないと正答ができない。

第5問 フランス海軍に属すると共に、探検家、環境保護論者、映画監督、研究者、そして作家として活躍し、水中の世界を探究したJacques Cousteauについての、平易な英語で書かれた物語を読み、その概要や要点を発表用ポスターにまとめる問題である。問1ではこの記事概要から副題として最も適切なものを選び、問2ではCousteauが若い頃に起こったことを整理し、問3では、Cousteauの業績を時系列に並べることで物語の展開の理解度を問う内容となった。

第6問 身近な話題やなじみのある社会的な話題に関する記事やレポート、資料などの英文を読

んで文章の論理展開を把握したり、概要や要点、情報を整理したり、要約する力を問う問題である。Aは、参加している勉強グループで、「偽の記憶」に関する記事内容をメモにまとめる場面である。与えられたメモを完成するうえでは、文章全体の論理展開を考えたり、概要を把握したりする力が求められる。また、どのように偽の記憶が醸成されるかを確かめる実験で得られたインタビューの書き起こしを使用しており、本文との関係を考えながら読むことが求められる。問1～問4を通して、偽の記憶とはどのようなものか、またこの実験結果やそれから導き出される結論はなにかを問うもので、本文の概要・要点や論理展開の把握が必要である。またBは、チームで発表コンテスト用のポスター作成のために、様々な長さを測るための単位の歴史や特徴をまとめる英文である。複数の長さの単位を相互に関連付けながら説明しているため、概要・要点や論理展開を把握する力を問う問題となった。問1は長さの単位の重要性についてまとめる本文第1パラグラフの要点を問うものである。問2は本文の広い範囲にわたる様々な長さの単位の歴史に関するもので、それぞれの単位に関する説明を正確に読み取ることが必要である。問3は本文に登場する6つの長さの単位を相対的に比較するもので、本文全体にわたる情報の整理が不可欠となる。また問4はこのような長さの単位を知ることの重要性を問うもので、本文の結論をきちんと理解することが重要となる。全体を通して第6問は本文全体の内容を把握する力が求められる問題であった。

### 3 出題に対する反響・意見についての見解

各方面からはおおむね肯定的なコメントを得た。特に高等学校教科担当教員（以下「高校教員」という。）からは、「グローバル社会で活躍する人材の育成を目指した英語教育改革の方向性を反映しており、外国語の語彙や表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて活用できるかを評価するテストとして、適切であったといえる。」「高等学校における教科横断的な学びや課題探究型学習が反映されているだけでなく、教科の本質に照らし、英語を読む必然性のある形で出題されているといえる。」、また「場面設定に応じてイギリス英語の表記が使用されていることも、コミュニケーションの手段として世界で広く使われている英語の多様性を表している」などの評価を得た。

各大問、中間での出題内容について、教育研究団体からは、第1問Aについて「短い英文のやり取りから必要な情報を読み取り、適切な応答メッセージを返信する設定であり、思考力を測定する問題として優れた問題である。」、第2問Aについて「今年は情報がコンパクトに1つのウェブサイトまとめられ、非常に分かりやすく改善された」、第2問Bについて「英文全体が非常によく構成されており、受験者にとって『事実』と『意見』の区別が分かりやすく、改善が進んだという印象を受けた。」との評価を、また高校教員からは、第4問について「どちらか一方のメールの内容理解だけでは正答にたどり着けないよう工夫されている良問である。」との評価を得た。また第5問では、教育研究団体より試行調査で出題された正答選択肢の数が特定されていない問題形式がなくなったことにより「受験者にとっては安心して問題を解くことができるようになったなど、テストの取り組みやすさの向上についても評価が高かった。これらはいずれも問いかたを工夫したところであり、より妥当性の高い出題ができたのではないかと考えている。

高校教員からは、第2問Bについて、「授業における言語活動のプロセスが問題として設定されている。」、第3問Bについて「記事は、スピーチ文等を書く際にも応用できる」、第6問Aについて、「これから受験者が大学で触れるであろうアカデミックなテキストタイプを素材としたことは興味深く、評価できる。」「メモは、項目の立て方や大事なポイントのまとめ方などを授業で指導する際の参考にもなる。」、第6問Bについては、「簡単な計算を必要とする設問が含まれるが、これは、

思考力・判断力・表現力等を発揮して、得た知識を再構成する力を測る設問として適切なものである。」など、今後の授業への良い意味での波及効果が示唆されている。

一方で、高校教員のコメントでは第2問Aについてリード文の精選の必要性に言及があった。実際のコミュニケーションの目的や場面をできるだけ自然に再現しつつも、受験者に分かりやすく伝える工夫を今後も続けていきたい。また、一昨年度までのセンター試験、また昨年度の共通テスト問題と比べても英文量が増えていることなどから、情報操作能力を測っているのではないかとの指摘に対しては、昨年度と同様に設計上の違いがあることを記しておきたい。日常生活においては、目的に応じた読み方が求められる。例えば情報を探し読みしたり、インターネットで調べものをしたりするような場合には、英文を一字一句読むのではなく、必要な情報を短時間で把握することが必要となる。またペーパーバックや新聞などを読んで楽しむ場合でも、一定のスピードが必要なことは変わらない。本テストでは、それぞれのタスクに応じたスピードで英語を理解することを念頭に、実践的なコミュニケーション場面において「その場で読み取る」能力の測定をしていることを今一度強調したい。

#### 4 ま と め

センター試験の「英語（筆記）」同様、「英語（リーディング）」は、全科目の中で最も多くの受験者が受験する科目であり、各方面からの関心が高い。特に、共通テストにおいては、平成21年告示高等学校学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、「英語（リーディング）」は、大学教育の基礎力となる知識・技能の理解を問うのみならず、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことを重視し、一方で大問ごとにA1からB1まで難易度を設定し、幅広い受験者層に対応できる問題構成としている。各大問の指示文では、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況を設定し、より現実的な場面に即したリーディング問題となったと考える。

リーディングは、たくさんの情報をより多く頭に入れることではなく、それらの情報を頭の中で整理して深く理解し、必要に応じて考え、活用することである。また、テストにおいてたとえ同じ力を測る場合でも、その方法は多岐にわたる。受験者には日ごろから様々なタイプの英文に触れ、目的や場面に応じた問いかけに柔軟に対応できるリーディングの力をつけることを意識してほしい。本問題作成部会のような理念が教育現場に良い影響をもたらし、英語のコミュニケーション能力育成に役立てることができれば幸いである。